

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：A 重油焚炉筒煙管ボイラー、
C 重油焚炉筒煙管ボイラーからガス焚ボイラーへ
の更新プロジェクト

排出削減事業者名：西日本衛材株式会社

排出削減事業共同実施者名：ES カーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	西日本衛材株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	西日本衛材株式会社 本社工場
住所	兵庫県たつの市龍野町大道566番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ESカーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油焚炉筒煙缶ボイラー、C 重油焚炉筒煙缶ボイラーからガス焚ボイラーへの更新プロジェクト

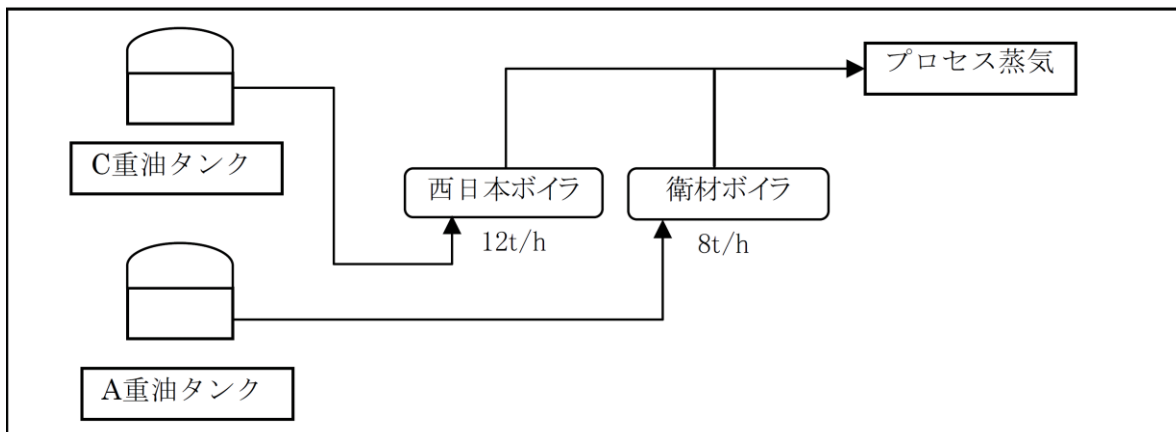
2.2 排出削減事業の目的

A 重油焚炉筒煙缶ボイラー、C 重油焚炉筒煙缶ボイラーをガス焚炉筒煙缶ボイラーへ更新する事により二酸化炭素排出量の削減を図る。

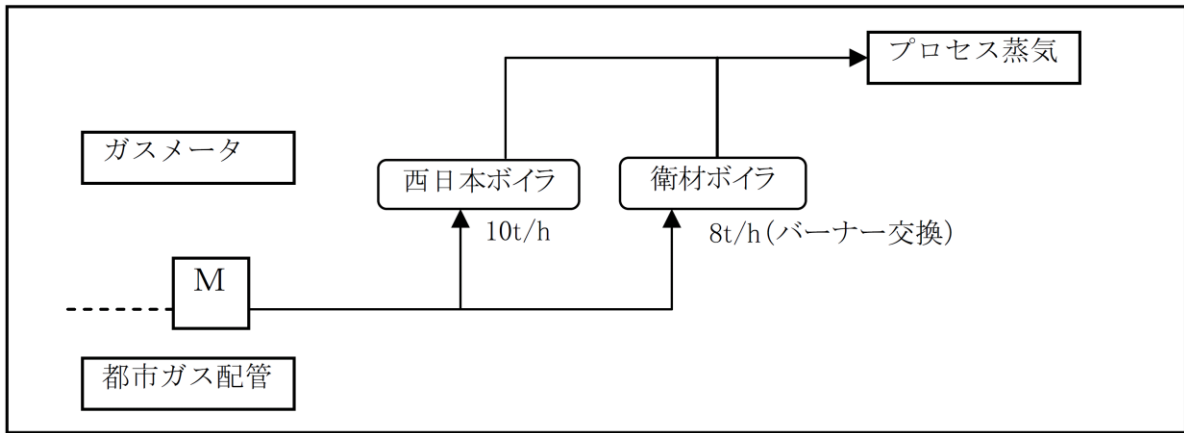
2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油焚炉筒煙缶ボイラー、C 重油焚炉筒煙缶ボイラーをガス焚炉筒煙缶ボイラーへ更新する事により二酸化炭素排出量の削減を図る。

(排出削減事業実施前の設備概要)



(排出削減事業実施後の設備概要)



国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.4 承認排出削減事業計画からの変更項目

2015年6月以降プロセス蒸気製造用にスラッジボイラーが、稼働開始し、衛材ボイラーの稼働の一部代替を行っている。詳細は「承認削減事業の変更について」を参照。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2010年 9月 1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2017年12月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備（重油タンク、ガスメーター）、ボイラ、バーナー及びその蒸気使用設備である。対象設備については 2-3 温室効果ガス排出量の削減方法にて図示する。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方 法に変更ある 場合、) 変更理 由
F _{fuel,PJ}	事業実施後(燃料転換 後)燃料の使用量	千 m ³ N	① 西日本ボイラー 2013年度：4,918.0 2014年度：4,864.9 2015年度：3,917.4 2016年度：4,499.0 2017年度：3,539.8	個別ガスメーターを元に算定	変更なし。
			② 衛材ボイラー 2013年度：816.2 2014年度：786.4 2015年度：937.8 2016年度：256.0 2017年度：261.8		
HV _{fuel,PJ}	事業実施後(燃料転換 後)燃料の単位発熱量	GJ/ 千 m ³ N	2013年度：44 2014年度：46.4 2015年度～2017年度：46	デフォルト値(高位発熱量)	変更なし。
ε _{PJ}	事業実施後(燃料転換 後)のボイラー効率	%	84(西日本ボイラー)	カタログ値より算定 (高位発熱量基準)	変更なし。
			79(衛材ボイラー)		

ϵ_{BL}	事業実施前(燃料転換前)のボイラー効率	%	80(西日本ボイラー)	カタログ値より算定(高位発熱量基準)	変更なし。
			82(衛材ボイラー)		
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前(燃料転換前)燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	(西日本ボイラー：C重油) 2013年度～ 2017年度：0.0741	デフォルト値を使用	変更なし。
			(衛材ボイラー：A重油) 2013年度～ 2017年度：0.0708		
$CF_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013年度～ 2014年度：0.0517 2015年度～ 2017年度：0.0521	デフォルト値を使用	変更なし。

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

(西日本ボイラー)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	4,918.0	44	0.0517	11,187.5
2014 年度	4,864.9	46.4	0.0517	11,670.3
2015 年度	3,917.4	46	0.0521	9,388.3
2016 年度	4,499.0	46	0.0521	10,782.3
2017 年度	3,539.8	46	0.0521	8,483.4
単位	千 m3N	GJ/千 m3N	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ} (西日本ボイラー ①)				51,511.8

(衛材ボイラー)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	816.2	44	0.0517	1,856.6
2014 年度	786.4	46.4	0.0517	1,886.5
2015 年度	937.8	46	0.0521	2,247.6
2016 年度	256.0	46	0.0521	613.5
2017 年度	261.8	46	0.0521	627.5
単位	千 m3N	GJ/千 m3N	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ} (衛材ボイラー ②)				7,231.7

事業実施後排出量 (①+②) = 58,743.5 tCO2

6.2 ベースライン排出量

(西日本ボイラー)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	227,213.3		0.0741	16,836.5
2014 年度	237,017.0		0.0741	17,563.0
2015 年度	189,208.1		0.0741	14,020.3
2016 年度	217,302.3		0.0741	16,102.1
2017 年度	170,970.0		0.0741	12,668.9
単位	GJ		tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL} (西日本ボイラー ①)				77,190.8

(衛材ボイラー)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	34,597.0		0.0708	2,449.5

2014年度	35,153.8		0.0708	2,488.9
2015年度	41,561.5		0.0708	2,942.6
2016年度	11,343.8		0.0708	803.1
2017年度	11,603.4		0.0708	821.5
単位	GJ		tCO2/GJ	tCO2
EMBL (衛材ボイラー ②)				9,505.6

ベースライン排出量 (①+②) = 86,696.4 tCO2

6.3 リークージ排出量

(西日本ボイラー)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013年度	0			0
2014年度	0			0
2015年度	0			0
2016年度	0			0
2017年度	0			0
LE (西日本ボイラー ①)				0

(衛材ボイラー)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013年度	0			0
2014年度	0			0
2015年度	0			0
2016年度	0			0
2017年度	0			0
LE (衛材ボイラー ②)				0

リークージ排出量 (①+②) = 0 tCO2

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EMBL	86,696.4
事業実施後排出量 (7.1)	EMPJ	58,743.5
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	27,952

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン －実績 (①－②)
31,310.0	29,191.8	1,148.2

省エネルギー量（原油換算）＝ 1,148.2 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ～ 2017年12月31日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			
	t			